

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	言語と社会 (ドイツ語)	
科目基礎情報							
科目番号	0086		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	機械工学分野		対象学年		5		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	★ 教科書 : 山路朝彦『ゼロから始める 書き込み式ドイツ語BOOK』(成美堂出版) ☆ 参考書 : 雨宮紫苑『日本人とドイツ人 比べてみたらどっちもどっち』(新潮新書)、熊谷徹『ドイツ人はなぜ、1年に150日休んでも仕事が回るのか』(青春新書)、三好範英『ドイツリスク 「夢見る政治」が引き起こす混乱』(光文社新書)。						
担当教員	池田 裕輔						
到達目標							
1. ドイツ語の初歩的能力を獲得し、簡単な会話や作文ができる。							
2. ドイツおよび(オーストリアやスイスといった)ドイツ語圏の日常生活の概要を理解、日本との相違点について理解するだけでなく、説明・議論することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		構文の枠構造、過去完了を含むドイツ語の初歩的な運用能力を獲得し、簡単な会話や作文ができる。		動詞の現在人称変化、主語、動詞、目的語の見極め、格変化とその役割を理解し、挨拶程度の会話と作文ができる。		ドイツ語の初歩的な事項を理解・習得できていない(最低でも動詞の現在人称変化を理解・習得できていない)。	
評価項目2		ドイツおよびドイツ語圏と日本の日常生活のあいだの相違を理解、説明・議論できるだけでなく、実際の生活場面において、それぞれの長所を取り入れることができる。		ドイツおよびドイツ語圏と日本の日常生活のあいだの相違を理解、説明できる。		ドイツおよびドイツ語圏と日本の日常生活のあいだの相違を理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A 学習・教育到達度目標 F JABEE a JABEE f							
教育方法等							
概要		ドイツ語やドイツ文化についてはじめて学ばれる方が殆どだと思います。本授業では、ごく初歩的なドイツ語の運用能力の獲得を目標とし、併せて、ドイツおよびドイツ語圏と日本の日常生活の相違について皆さんと一緒に考えていきます。(教科書の名前もそうであるように)ゼロから、気楽にはじめてみましょう。					
授業の進め方・方法		発音や暗唱、ごく簡単な作文の練習などをおこなう。また、ドイツおよびドイツ語圏と日本の日常生活の相違に関しては、プリント等を用いて講義し、みなさんと一緒に議論をおこなう。 合否判定 : 定期試験(前期末試験、後期中間および学年末計3回)の平均が60点以上を合格とする。 最終評価 : 合否判定点 再試験 : 不合格の場合には再試験ないしは課題提出を求め、60点以上を合格とする。最終評価は60点とする。 関連科目: 英語、歴史総合、歴史と文化、現代社会					
注意点		特にありません。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	導入		ドイツ語で挨拶ができる。ドイツ語やドイツ語圏の日常生活について興味を持てる。		
		2週	アルファベットと発音		アルファベットの読み方と(英語と比べてかなり簡単に習得できる)ドイツ語単語の発音ができる。		
		3週	数字とお金		(旅行する際には、お店でお金をごまかされない為に必須な)ドイツ語での数字とお金の発音・表現を習得する。		
		4週	簡単なドイツ語の定型表現		旅行や日常生活で良く用いる幾つかの定型表現を習得、それを用いたごく簡単な会話ができる。		
		5週	ドイツ語の文法的特徴		ドイツ語が持つ文法的特徴について、その概要を簡単に理解できる。		
		6週	ドイツと日本①ー地理		ドイツの地理的特徴を理解し、その概要を日本との相違を踏まえて説明できる。		
		7週	動詞の現在人称変化①		ドイツ語の規則動詞の現在人称変化表を作成することができる。		
		8週	動詞の現在人称変化②		ドイツ語の規則動詞の現在人称変化を用いたごく基礎的な作文ができる。		
	2ndQ	9週	動詞の現在人称変化③		ドイツ語のsein (英語のbe) とhaben (英語のhave) 動詞の現在人称変化を習得、それを用いたごく簡単な作文ができる。月や曜日、体の部位、職業等、ごく基礎的な単語を習得し、それを用いたごく簡単な会話や作文ができる。		
		10週	格変化①		ドイツ語の格変化について簡単な理解をもつことができる。		
		11週	格変化②		ドイツ語の格変化が持つ役割を理解することができる。		

後期		12週	格変化③	ドイツ語の格変化を用いて、ごく簡単な作文ができる。
		13週	ドイツと日本②－近代史	ドイツの近代史を理解し、その概要を日本との相違を踏まえて説明できる。
		14週	人称代名詞①	ドイツ語の人称代名詞について簡単な理解をもつことができる。
		15週	人称代名詞②＋前期のまとめ	これまで学習した文法事項を用いて、ごく簡単な会話や作文ができる。
		16週	前期期末試験	
	3rdQ	1週	前期の復習	前期に学習した内容が習得できている。
		2週	疑問文	ドイツ語の疑問視および疑問文の作り方が理解でき、簡単な会話や作文ができる。
		3週	疑問詞①	ドイツ語の疑問詞とその役割が理解できる。
		4週	疑問詞②	ドイツ語の疑問詞を用いて、ごく簡単な会話や作文ができる。
		5週	疑問詞③	ドイツ語の疑問詞を用いて、ごく簡単な会話や作文ができる。
		6週	ドイツと日本③－現代史	ドイツの現代史を理解し、その概要を日本との相違を踏まえて説明できる。
		7週	これまでの文法事項の復習	これまで学習した文法事項を用いて、ごく簡単な会話や作文ができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	疑問詞④	ドイツ語の疑問視を用いることで、疑問文とそれへの回答となる文章の作文ができる。
		10週	話法の助動詞①	ドイツ語の話法の助動詞について、その役割が理解できる。
		11週	話法の助動詞②	ドイツ語の話法の助動詞について、その役割が理解でき、ごく簡単な会話や作文ができる。
		12週	ドイツと日本－日常生活の相違	ドイツでの学校や労働の実態（働き方の実態）について簡単に理解し、日本との（極めて大きな）相違について理解、説明ができる。
		13週	話法の助動詞③	ドイツ語の話法の助動詞をもちいた簡単な会話や作文ができる。
		14週	話法の助動詞④	同上。
		15週	これまでの文法事項の総復習	これまで学習した文法事項を用いて、ごく簡単な会話や作文ができる。
		16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	3	前1,前2,前3,前4,前5,前7,前9,前10,前11,前12,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後7,後9,後10,後11,後13,後14,後15
			現代社会の考察	3	前13,前15,後6,後12
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前6,前13,前15,後6,後12
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前6,前13,前15,後6,後12
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前6,前13,前15,後6,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100